

# SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

No. 14

平成5年1月31日



サイクルセンター展示場



## SaDA 見学会報告

平成4年11月28日(土)、SaDA見学会を開催しました。今回は、昨春オープンしてSaDA No.12号の「企業が創る」でも紹介された、大仙公演の一角にある「自転車博物館サイクルセンター」です。当日は会員、賛助会員合わせて20名が参加しました。

1FはAVホールで、自転車の歴史を楽しく見ることができます。2Fはクラシック自転車の実物展示で、自転車の歴史を画した代表的なクラシック自転車を見ると、あらためて先人たちの自転車に賭けた努力と情熱が心をうちます。「人の夢さまざまなカタチ」、感動しました。そして3Fはメカニズムコーナー。人にやさしい、地球にやさしい自転車のコーナーです。各階とも気どりのない、親しみやすく解りやすい展示で、説得力がありました。これから、堺にふさわしい文化的シンボルとなっていくことでしょう。

見学会後、近くのレストラン「GORYO」で懇親会。「良きものを見た」という興奮でワインもイタリア料理もすすみ、楽しい歓談のひとつきを過ごしました。(高木)

## ちびっこ年賀状コンクール

年末の年賀状は師走の繁雑と重なるが、年があらたまり新しい気分で頂く賀状を想うと、何とか無理をしても、少しでもいいものとするのは、誰も同じ想いだろう。

3年前から堺市農協が主催して、市内児童の年賀状を募集している。堺デザイン協会から岡本安吉さんと私が「きれいで賞」の審査に出かけるのもこれで3度目となった。その間に堺市農協からJA堺市となったが、聴くところJA堺市は全国でも5本の指に入る大きな組織で、24支所を持っている。JA堺市の津塩専務も加わり、3名で審査に当たるのだが、各支所の方々が地域の小学校に声を掛けて集められた年賀状は、年を経るごとに盛大になり、今年は4,674通となった。何しろ沢山のことから、本部の方々の整理も大変なことで、学年別、地域ごとに仕分けて陳列することから賞の決定まで、年末ということも加味すれば、そのご苦労には頭が下がる。

作品は千支の酉に関するものが一番多いが、テレビマンガの主人公や、既製の年賀ハガキの影響が見られる中にも、よく見るとそれぞれの子供の心が覗かれる作品ばかりで「もっと時間が欲しいナァ。」と言いつつ、つい我々も子供の心の中に入って楽しくなってくる。特に低学年ほど素直な気持ち

ひまわり幼稚園・年長組  
浅香 有美ちゃんの年賀状



の表現が多い。小学校でご指導頂く先生方の一言がかなりの影響力を持っていることも、ブロックごとの傾向として見られる。中には凄いものもあって、そのままデザイン事務所に欲しいような力の持ち主もいる。

応募作品は掲示されるが、入賞者の作品は年々ファイルされている。この子供達が成人する10年、20年後を想像すると、その時代背景とともに、昔自分が描いた年賀ハガキが、一つの物語を語りかけてくるだろうと思う。(岡村 菊)

## 表紙の周辺

“ふるさと”は“大仙陵のあるところ”堺は、仁徳陵をはじめとする巨大古墳の町である。この世界最大の王陵を造営するために、昔から沢山の技術者と土木用鉄器が発達した。今でも周辺地域に金岡、日置荘など鉄に由来する地名が残されている。この鉄加工技術は同時に武器武具づくりであり、現在の堺刃物となったと言われる。天文年間、ポルトガルから鉄砲が伝えられた時、堺の鍛冶屋衆が即座に鉄砲づくりに取り組めたのも、鉄砲の筒をつくる技術、鉄の鍛接技術があったからに他ならない。この筒づくりの技術が自転車のパイプとなり、今日の自転車産業となった。めくるめく因縁と言おうか、営々と受け継いでいる技術なのである。

サイクルセンター構想が持ち上がったのは今から10年前のことで、それまでに株式会社シマノが入手したクラシック自転車のコレクションを展示して、我が国の自転車生産の3割を占める堺に自転車博物館をつくりたいというものだった。丁度その頃は、行革が巷で叫ばれ始めた頃だった。そのあおりをまともに受けて、財団法人化が暗礁に乗り上げてしまい、押せども引けども進展がない。そんな麻糸のもつれを、辛抱強く今日の開館に導いたのが、岡田館長と立見副館長であった。勿論、財を投じたのも、決断を下したのも、当時の島野尚三社長(理事長)であったことは言うまでもないが、

今、地球環境が人々の間でとりざたされている。石油エネルギーから原子力まで、人間が楽をするために地球に及ぼす害毒は計り知れない。そんな中で自転車の存在が、一躍クローズアップされてきた。地球にやさしく人にやさしい乗り物なのである。10年目にして開館したサイクルセンターは世界に誇れるコレクションだが、それ以上に、この博物館を核とした、自転車に関する物や情報のネットワークづくり、自転車研究・開発者への奨学金制度、催しなどを通じて世の中に発信する提案など、今後果たす役割は大きい。(岡村 菊)

## 平成4年SaDAアンケート

SaDA広報委員会会報編集室では、会員相互の理解と親睦をより一層深めるため、平成4年12月SaDAアンケートを実施いたしました。早速多数の方が解答を寄せられ、予定通り本号と次号に特集して掲載する運びとなりました。熱心なご協力をいただき編集室一同深く感謝しております。なかには思いあまってかなりの長文を物された方もおられましたが、限られた紙面の中で出来るだけ原文のまま掲載するよう努めました。そのため一部の方の解答がやむを得ず次号の掲載になりますこととお詫びいたします。それぞれのご意見に対して、反対、同意等のご意見をお送りください。紙上討論など発展的にふくらませていきたいと考えております。なおまだ解答をお書きになっていらっしゃる方も、期限は過ぎておりますが次号に余裕がありますので、ぜひこれからでもお送りください。

### SaDA アンケート'92

- Q1：貴方の近況をお知らせください。お仕事の様子、ご家族の様子、このごろ考えることなど。
- Q2：最近貴方がデザインされた作品、発刊された著書、研究、講演など、活動の状況をお知らせください。作品など、写真+簡単な説明をお願いします。
- Q3：20世紀も残り少なくなりましたが、貴方の選ぶ今世紀最高のデザインを挙げてください。

### 老 健一

- Q1：一切の仕事をやめて、もっぱら病む老人の介護に明け暮れています。年を取ることは哀しいことです。
- Q2：ホットスタンプを活用した色紙箱を歌誌「坤」の今年度の最高賞として製作し、新人賞に創作の額を作りました。最近とも言えませんが、歌文集「美を探る、大きな羊はなぜ美しい」と歌集「鍛金花瓶」を自費出版いたしました。
- Q3：今世紀最高のデザインとは言えませんが、最近発表された喜多俊之さんの、ボーダレス・デザイン展の作品群はユニークな、現代のデザインだと見てきました。

老健一先生の著書



### 要 信一

#### [さらにとするデザイン]

虚實・の實(み)。

それと、素朴。

この内容にあり。

常に、初心は、初の発(ハツ)であり、これ、平成そのものへと展開するもの世と、

拙老ながら、申し上げさせていただき度いのです。特に特に、今日的時代には、のお応言ともさせていただき度くと、不一不一。拜

平素常に、色々御世話様になり、ありがとうございます。

### 浜 一彦

#### Q1： [見る事、創る事]

考えるより体を動かす方が性に合っている質か、この頃では無性に物を視たい思いが強く、週末を利用して古いものを主に足を動かしております。

その様な中において時折「人の意識を超えたもの」又は「時を超えたもの」とでも申し上げるべきものに出会う時があります。その様な時にはそれこそ、己が奥深くまでも見透された様で、柄にもなく真摯なる心持ちにさせられると同時に「満つる」という事を教えられます。

常日頃忘れがちな「大いなるものに対する畏敬の念」とでも申し上げるべき思いを改めて感じさせられております。視る事、創る事等々は考えればつきる事なく、模索の繰り

返しかも知れませんが、時折右の様な事等にも注意を向けさせられているこの頃です。

Q2: 現在進行中ですが「住宅」(木造)がごさいます。

Q3: 問いが大きく、私の力量では思い浮かびません。

### 岡本 安吉

Q2: 10月の末、日本ファインガス協会社案内の企画、デザイン、撮影を担当させていただきました。

ロケ撮影は臨海高砂の三井東圧工場内で、私はもともと高所恐怖症なので、地獄の何日かが続きました。

11月3日～5日、中百舌島の《じばしん》にて同社の展示会のディスプレイを担当。



### 安永 一典

Q1: 企業から脱け出て大学生生活に入って約2年、馴れる間もなく毎年卒業、入学が繰り返され、今学生のために何をすべきか、改めて考え直し中です。又デザインについて、再び異なった目で勉強する機会があるのは自分にとって幸せなことと思っています。しかしこの不況、4回生にとってはかなり厳しいものがあるようです。何とかありませんかネエ。

Q2: 大学の紀要で今、「人間行動の側面から見た家具の分類」を連載中です。改めて家具というものを、単に歴史的な流れからだけ見るのではなく、モチーフ、考え方の視点から考え直してみようと思っています。いづれご批評下さ

い。

又講演などを通じて思うことは「インテリア」について、専門家と一般の人達との考えにかなりズレがあることです。これは以前からですが、一向に縮まっていないように思えます。これ又何とかなりませんかネエ。

Q3: ゼムクリップ。小さく、簡潔で、安く、そして未だに使用され、これと云った代替品もない。これはデザインの原点です。

### 館野 羊一

#### 〔インテリア様式の研究の序章〕

私はインテリアデザインを企業内で担当しています。入社したころ、私の部内の図書室に革表紙のボロボロの古い本が数多くあり、それらがすべて歴史上の家具や室内の貴重な図書であることを先輩たちから教えられました。

芸術にも、もちろん国家にも人の時の流れという、歴史があることは当然知っていましたが、自分自身が創作を仕事とするようになって、この歴史を学ぶことの大切さを知ったのはしばらく時間が過ぎてからであります。

大切さの実感を持つようになった第一は、創作の歴史で、その創作の結果としての家具を鑑賞したり、その本質を実感するためには、どうしてそれが作られ、採用され、あるいは保存されつづけたか、を知りたかったからであります。

第二はその美しさと機能、そしてそれを作り上げた『技術』と『材料』に思いを馳せたからであります。

デザインはほかの芸術とは異なり、どうしても経済活動となんらかの係わりあいがあって、孤立、孤高の美の追求では創作し得ないものでありましょう。近代の工業デザイン、インテリアデザイン、グラフィックデザイン、ファッションデザインはとくにそうだといえます。ツタンカーメン王が作らせた黄金の椅子は、あるいはルイ王朝が作らせたベルサイユ宮殿は、権力者の絶対的な力で出来たため、やや経済的見方をすべきではないかもしれませんが、実現するためにはそれなりの絶対的経済背景があり、こんにちとは違うでしょうが、そのときどきの最高の何かが集められないと不可能であったはずであります。

インテリアデザインでは『様式の研究』といいますが、インテリアの美の変遷を学ぶことは造形感覚を磨くうえでも大切でして、そしてなおかつ背景の時代が要求したデザイン、それを可能にした技術と材料を学んで、これからの未来の課題を解くために、ぜひ勉強したいと考えました。

そう決心して、もうずいぶん時間がたったのですが、いまだまとまらず、場当たりのこんにちのデザインを創作している悲しさであります。

ぜひ、この思いをお持ちのかたは多いと拝察致しますので、なんらかの研究同好会を作れないものか、あるいはすでにご研究たけなわのかたがおられましたら、この誌上にて討論、研究情報の交換など出来ればいいな—とっております。

歴史研究の点からみて建築の分野では、数多くの建築歴史書があり、いくらでも勉強出来ます。あまり私は読んでいないのですが、遅まきながら、家具変遷の本当の理解のため、ふたたび世界の歴史を調べ始めました。インテリアではエジプト、イタリヤ、スペイン、フランス、イギリス、そしてアメリカというのが、1本の縦糸でしょう。さらに北欧、ロシア圏、また中国をインドをというように、3~4本の縦糸が考えられます。『道具』としてインテリアをみると、求められた機能については基本的に、歴史的に変遷や狙いはそう多くはありませんが、そのときどきに『作らせた人々=施主』に注目しますと、人間の強欲がみられまして、そのセンスの良し悪しに一言いいたくになります。でも歴史に残るという意味ではやはり淘汰されたのでしょう、そのときどきの典型がみられまして、かたちは変わっても『人間の傲慢さ』は変わらないものだと思います。これを横糸にみて歴史を読んでみるのもいいか、とも思います。

前述の傲慢についての意見はインテリアの世界のことでありまして、近代にはいつの日本の民芸の世界については、失礼ないかたであります。しかし建築の世界では、東京が世界の設計家の実験場になっていて、精神分裂をおこした都市といえまして、傲慢にも自然の破壊こそ建築家の仕事だと、いつているように見え、未来の人々も歴史でももちろん淘汰してゆくでしょう。経済と密接に関係を持って成り立

っているデザインの世界で生きる我々にとってこのお話は、逃げつつの論理であることをよく承知してしまして、私たちもまるで、権力者にいやいや作らされた職人さんがたと同じであります。それを越えて素晴らしいデザインをするのがいい設計者なんでしょうが、なかなか傲慢と謙虚をうまくあつかうのは難しいようであります。ふと純粋美術の世界に逃げ込みたくなりますが、それはいろいろな意味で企業の枠を超えてから出来るのでしょうか。

最近、コロニアルスタイルを好むかたに出会いました。造形の段階で意見が食い違ひまして、コロニアルスタイルについてのお話し合いをいたしました。結論は出ず、現在私は自分のあいまいさを無くしたく、イギリスの歴史をもういちど調べ、そして西ヨーロッパの歴史も読んでいるしだいあります。アメリカのコロニアルスタイルはどうして出来たのか、スペインの時代は、インドは……などと広がり過ぎていきます。

ただビューリタンがイギリスから渡るとき、お祖父さんの時代の思い出の家具を大切に、新大陸に渡り、それが朽ちる前に、その土地で得られる材料、その地の気候を考えて作った新しい家具に、民主主義の息吹や差別のない世の時代を意識して作った家具に、その議論の終着点をみたように思います。アメリカデザイン的一面がここにあり、ふと傲慢な歴史の繰り返しに嫌気をさしていた私は、ほっとしたのであります。

いまだにルイ16世風の家具にあこがれるかたも自由ですが、それより私たちは、自然体の生活に調和する新しい形状を家具に表現していきたいものであります。そのためにも再度、歴史の根底にながれるいろいろな人々を学んでみたくなった、そしてこの誌上でデザインの歴史をいろいろな人々からお教をいただきたいと思ったしだいあります。

滝川 益彦

Q1: 昨年より我が家は夫婦2人きりの生活となり、今迄とは様子が一変しました。

長男はS社シンガポール支店に赴任、娘は結婚して東京での生活、同じ年に出て行ってしまったこともあって、2人

とも変化についていけずと言った処の1年でありました。しかし今は現在を楽しくと、2人して60の手習い？老骨にムチ打って水泳を習い始めています。

いつ泳げるようになるのか先が見えないのが実情ですが、頑張ります。

Q2：最近香港より深圳を訪問しました。以下は、その訪問記です。

[香港深圳見聞記]

第1日目 香港九龍駅にてK氏と待ち合わせ、YIP氏初対面。錠前工場の社長で彼の案内で深圳に向かう。約1時間LOW WOO駅にてVISA申請。事前にK氏によってあらかじめ用紙の手配が出来ていたのも、とても早く済ませることが出来た。出国、入国手続後始めての中国、深圳の地を踏む。人が多く、駅前には旧家を解体した後片付けをやっていて、新しい建物を建てる計画らしい。レンガの片付けなどは全て人手にたよっていて、機械が不足しているのがよくわかる。道路修理もタガネを持ってハンマーでたたいていたのが、如何にも中国らしい。

香港側の駅より歩いて10分ほどでバカでかい大きな駅が見える。どっちを向いても新しいビルばかり。新宿を思わせる近代ビルが建っている。我々の宿泊先も駅前の最新ビルで、サービスも西洋スタイル。美人アシスタントがフロントに案内してくれ、チェックインの手伝い、英語での対応、そつがない。ロビー奥のコーヒーショップは、夜はピアノバーになり、ジャズから何でも歌ってくれる女性歌手がいて、これが中国とはとても思えない。

翌朝早く出発して、タクシーを半日チャーター（イップさんの支払い？）してイップさんの工場見学。朝のラッシュで市内は車でごった返している。それぐらい車が多く、トヨタ、フォルクスワーゲン（ノックダウン工場があるらしい）の中古車ばかりが目立つ。

約1時間ぐらい走った所に、イップさんの工場がある。その途中にも工業団地らしい処が各所にあり、それぞれの規模はかなり大きい。その開発に比べ、道路事情は悪く、又、機械の導入も少ないらしく、ツルハシ、スコップによる手作り作業を多く見かけた。開発のスピードがなかなかついていか

ないようだ。道路は土ぼこりでもうもうとして、窓を開けてはとても走れない。閉めていても、ノドが何か変な感じである。

イップさんの工場は5階建、2棟あり、社員250名とのこと。錠前を作っていて、その機械類は、香港から全て持って来たとのこと。従って香港の工場は今も動いていない。他の工場もそんな処が多く、香港の工業団地は廃墟のようになっているとのこと。

工場見学をさせてもらった印象

工場は2棟あり、その中間をテント屋根でつないで空間を材料置き場等に利用。門には厳重に錠がかけられ、門番が1人、イスに座っていて開けてくれる。この人は唯それだけの仕事らしい。1日中丸イスに座ったまま。完成品の検査工程は、20人ぐらいの女子（20才ぐらい）が1本1本チェックし、カギの開閉をし、調子の悪いのは別の箱に入れる。男子は3人ほどいたが、作業は直接せず、調子の悪いのだけチェックし直している。他のことは、手が空いていてもしないみたいである。

仕上工場ではバフ研磨、ベルト研磨など全て男子が1個1個手で、チャージしてはレバーで押さえて磨いていた。この速さのすごいこと。中国人は働かない、サボることをいつも考えていると聞いていたのが、うそのようだ。これは多分仕組みがあるかと直感したので聞いてみたら、矢張り出来高払



錠前工場正門前にて。右から3人目が筆者。

いで、1人の女性がノートを記入、その日の出来高を1人1人つけていた。品質面での心配はないのかとの質問に、もし不良品が出たら、全部自分持ちでペナルティーを取られる仕組みになっているらしい。従ってどの工程を見ても、一所懸命にやっていて、仕組みが変わり仕事のやり方を教えてやれば、こうも違ってくるのかと思う。しかし一方では、日本と根本的に違うのではないかと感じるのは、門番がいてしっかりと見張っているみたいなお店があること。

女子達の働いている処に男子が何もせずうろろしている？ これも或は見張り役？ とも思えるが聞きもらしたのでわからない。信頼性とか、人格だとか、もっと高いレベルの話はどうなのか？ と言ったことになると日本でも苦労しているだけに、今迄の政治の遅れが、どの程度人心に違いがあるのか、2泊3日の旅ではほんの表面を見ただけで、これからの研究課題としたい。深圳という町は特別区として区分され、どこからもビザが必要で、人口増を押さええてもどんどん人口が増加しているらしい。

たしかにこの町では豊かな暮らしが出来るとなれば注目されるのは当然、給料も高くなっているらしいが、それでも高卒女子で月6,000円(日本円)と安い。

市内ではカラオケが大流行、これも日本の発明品で有名だし、商品にも機械にも、みんな注目されているのが、感じられる。

午後、見本市会場に行く。ホテルの横が会場となっていて、恒久展示場となっている。期待をしていたプラスチック関係は、成形機械とかその他の大型機械、工作機械が多く、下請けとして活用出来るようなものは出品されていなかった。しかし、深圳で放電加工機、成形加工機などが生産されているのにはびっくりである。

深圳の市内は、車が多いのと信号機があっても無視する車、無視する人、車の来ないのを目で確認して道路を渡らないといけぬ。又、自転車の荷台や両サイドの大きなカゴに荷物をいっぱい詰めて、ふらふらと通り過ぎる人達、1人道端で店開き？商品を並べて売る人……その一方では総ガラス張りの高層ビルが建設され、郊外では工業団地の造成や道路工事に機械を使わず、人手による作業が多く見受けられ、工事

のピッチはかなり遅いものと考えられる。従って新しく生まれ変わろうとする姿と、なかなかそれについて行けない問題点をかかえながら、唯見習って西洋化？或は日本に追いつけと言った考えがうかがえる。そして第2の香港をこの地に造ろうとしているのである。いや、もう間もなく出来ようとしている。

Q3: デザインについては素人の私にはコメント出来ませんが、最近JRにいろいろなデザインの電車があるのには、びっくりしています。やっとなり気になったのは評価してやりたい。

## 中野 匡

Q1: 不景気の中、じっくりデザインについて考えさせられる時間を持てるのもいい時かなあとも思います。中途半端な子供じみたデザインも、この時期に無くなっていいのではとも。(他人事ではありませんが)

Q2: 下の写真は、昨年11月5日にオープンした、北新地の料理店です。南(大阪千日前)に本店があり、大阪に15店舗ある支店のひとつです。料理に関しては、相当な工夫のあるメニューばかりです。13坪のスペースに22人も入れる密度のある店に仕上がったと自負しています。特に照明手法に工夫しました。

2~3のコンベ等に挑戦する予定です。

Q3: 前半のことは実体験がないのでわかりませんが、このデザイン業界だけではないと思いますが、バカが少なくなった様に感じます。(デザインに関して、もの作りへの全力投球する者) によって、テクノロジー的産物は多少はあると思われるのですが、ヒューマンテックなデザインの本質をついた様なものは、今のところ知りません。



## 堺・今・昔

### 竹内街道

老 健一

もう半世紀を超える前ですが、現在の市役所の東側にある、ダイエー・ジョルノの北西にある、陸橋階段の下に、「日本国道1号、竹内街道の起点」と刻んだ、石柱が建てられていました。その折は別に気にもしていませんでしたが、この度竹内街道を書くについて、確認にゆきましたが、戦中・戦後の混乱ででしょうか、姿を消していました。市役所へゆき伺いましたが、古い事ですから知っている方もなく、年配の方が板の上ったところに、竹内街道の標識を立てたので、見て欲しいと言われました。この辺りは旧道の名残も有り親しみを感じましたが、西高野街道との分岐点に、真新しい“歴史の道”と彫った石柱が建っていました。

古代日本に大陸の文化を伝えた竹内街道・丹比道（たじひみ

ち)の2千年後の姿ですが、<sup>たかみづ</sup>住吉津(現代の堺港附近?)から、大小路を通り、榎元町、長曾根、野遠から竹内街道へ出る飛鳥への官道には、遣隋使や仏教の僧、大伽藍を建てた手人と呼ばれる匠の集団も歩いた道であったといえましょう。今、その竹内街道に立っていると感慨深いものがあります。平成の今日は、中央環状線から国道309号線へ出て、石川の右岸へ太子町を経て竹内峠へ出ます。並んで自動車が走る舗装路から、大和高田市の市街が眼下に見えます。古代の人はここでどんなにか喜んだことでしょうか。



西高野街道との分岐点の標識

## 堺デザイン協会第9回総会

■日時 平成4年6月5日(金)

■場所 ホテル・サンルート堺●開会午後6時

- ・岡村事務局長より出席状況報告—総会開催成立を確認
- ・川崎理事長挨拶

### ■議事

- ・第1号議案 平成3年度事業報告及び収支決算報告  
高木理事より事業報告  
山崎理事より会報SaDA発行について補足説明  
森理事より収支決算報告  
垣村監事より会計監査報告—承認
- ・第2号議案 平成4年度事業計画及び収支予算(案)説明  
高木理事より事業計画(案)の説明提案  
森理事より収支予算(案)の説明提案—承認

■閉会 午後7時

総会終了後、恒例の懇親会に移り、新旧会員の和やかな歓談のうちに楽しいひとときを過ごしました。

## 編集後記

思い切って8ページにしてみました。情報量の激減は寂しいかぎりです。表紙が頭でっかち感じられます。SaDA Forumを一時犠牲にいたしました。老先生の「堺・今・昔」は続けてまいります。短時間でしたが、早速多数の方々からアンケートのご回答をいただきありがとうございました。一部今号に掲載できませんでしたが、次号のアンケートの特集で掲載させていただきます。アンケートの回答の枠を大きく外された方もいらっしゃいますが、それこそこの会報SaDAの本意とするところ、常に自由闊達な意見発表の場でありたいと願っております。まだ若干の余裕もありますので、未回答の方はぜひ今からでもお寄せください。その他ご意見をお聞かせください。次号発行は4月下旬の予定です。(山崎)

会報 SaDA 14号  
平成5年1月31日

発行 堺デザイン協会

〒590 堺市向陽町1-1-7 オカムラデザインプロ内 TEL.0722-29-5011

編集 堺デザイン協会広報委員会